

(11) 中筋小学校

学 校 長 睦野 高俊
校内研究代表者 野村 拓子

1. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」
～ICTの効果的な活用を通して（算数科を中心に）～

2. 主題設定の理由

本校は、学習リーダーを中心とする児童の主体的な学び合いを通して個々の力を高めていくことをねらいとした学習スタイル（中筋スタンダード）を継承してきた。昨年度は、資質・能力ベースの授業改善を進めるために、見方・考え方を働かせた授業づくりについて研究を進め、見通しのもとせ方、見方・考え方に沿った意見のまとめ方、学びを深めるための適用問題の活用方法などを盛り込んだスタンダードへと改善した。しかし、様々なテストの結果から、知識を結びつけて考える問題での誤答が多いことが分かり、授業では問題解決ができて、その知識を新たな場面で活用・発揮して問題解決をすることに課題が残った。

今年度は、GIGAスクール構想により、「一人1台PC端末」「高速ネットワーク」「クラウド」が実現した。ICTの活用は、主体的・対話的で深い学びの授業改善をはじめとする新学習指導要領の着実な実施、令和の日本型学校教育の構築の鍵を握っていると言える。

本校においても、ICTの効果的活用は、子どもたちの学ぶ意欲を高め、より主体的・対話的な授業づくりにつながったり、知識・技能を活用・発揮してより深めたりするなど、課題の克服と研究の充実につながっていくと考える。

そこで今年度は、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの授業づくり～ICTの効果的活用を通して（算数科を中心に）～」とし、これまでの研究の成果を大切にしつつ、クロームブックを中心とするICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」について研究を深めることを通して、主体的・対話的に学び、活用・発揮して深めていく力を子どもたちに育成していきたい。

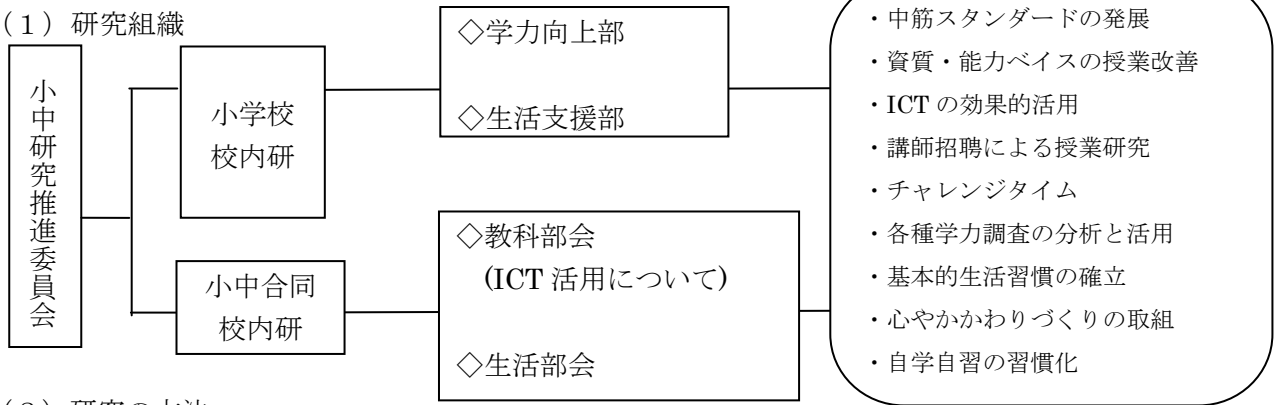
ICT活用については、学習面だけでなく生活面でも積極的に活用を進め、業務改善を果たしていくとともに、小中においても連携の一つのテーマとして共同で研究し、連携を更に深めていきたい。

3. 研究仮説

- ①これまで培ってきた資質・能力ベースの授業における指導過程（導入、課題設定、とも学び、適用問題、ふりかえり等）において、積極的にICTを活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を追究することで、これまでになく学習が広がり、子どもたちの学びへの意欲が高まるとともに、より主体的・対話的となり、学んだことを活用・発揮する力が高まっていくだろう。
- ②小中間で、発達段階や教科等において系統性・一貫性のある指導を行うことによって、学習面や生活面での9年間を見すえた連携が深まり、取組が向上し、子どもたちの学びや生活がよりしっかりしてくるであろう。
- ③基本的な生活習慣の確立、命や人権を大切にされた学級経営による仲間づくり<横系>、全校活動等を通じた仲間づくり<縦系>、将来を見すえた自学自習の習慣化（予習）等が、学びを支える基盤（生活やマインドなど）づくりにつながっていくだろう。

4. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織



(2) 研究の方法

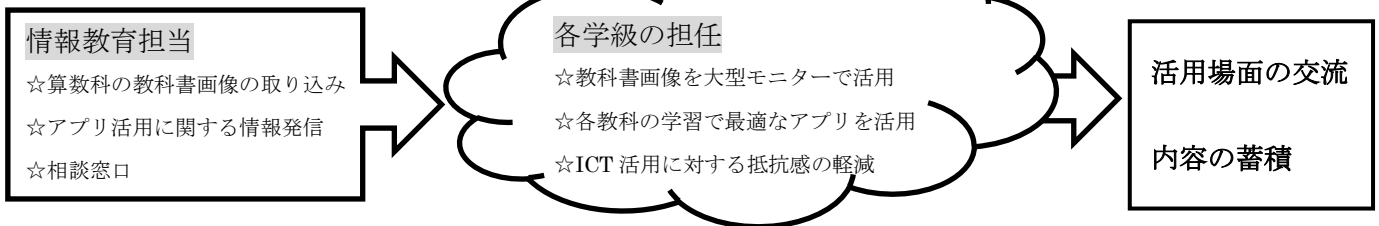
- ・毎月3回、基本的に水曜日を校内研修の日とする。講師の都合で変更する場合もある。
- ・学力向上部、生活支援部の部会を定期的にもつ。
- ・小中合同校内研を年に5回もち各部会の中で小中の連携を深めていく。

5. 具体的な取り組み

(1) 授業改善

① ICTの活用

- ・情報教育担当教員を中心とした授業設計
- ・活用場面の交流と内容の蓄積



② 新学習指導要領にもとづく資質・能力ベースの授業研究（算数科）

- ・各学級年1回の研究授業（年5回）
- ・教材研究はブロック研修とし、講師招聘のもと、事後研究を行う。
- ・教材分析シートを活用する。
- ・研究授業は視点を明確にして参観・協議し、PDC Aサイクルで授業改善に取り組む。
- ・協議内容や助言、児童・教師別のチェックシート結果等を研究通信で知らせる。

③ 授業スタイルの統一

- 1) 授業の流れをクラスルームに表示する。
- 2) ひとり学びやとも学びでICTを取り入れる。
- 3) 授業終末10分を確保し、適用問題に取り組ませる。教科書の内容を優先し、残り時間は

AI

ドリル等を活用して取り組めるようにする。

- 4) ふりかえりをスライドやスプレッドシートで共有・管理し、次の学習へとつなげる。

メニューボード



ひとり学び



適用問題



ふりかえり

①今日の学習で学んだこと		②友達から学んだこと		③生活に関連した	
A	B	C	D		
いろいろな方法で、正解を見つけました。自分なりに考えた方法で、友達から学びました。先生の話も参考にしました。	先生の話を聞いて、自分なりに考えた方法で、友達から学びました。先生の話も参考にしました。	先生の話を聞いて、自分なりに考えた方法で、友達から学びました。先生の話も参考にしました。	先生の話を聞いて、自分なりに考えた方法で、友達から学びました。先生の話も参考にしました。	先生の話を聞いて、自分なりに考えた方法で、友達から学びました。先生の話も参考にしました。	先生の話を聞いて、自分なりに考えた方法で、友達から学びました。先生の話も参考にしました。

④資質・能力を支える取組

- ◇帯タイム（チャレンジタイム）：活用力をつけるための内容に変更（天声こども語の視写等）
- ◇朝の準備：PCに触れる時間の確保
- ◇すきま時間を活用したタイピング練習（高知家まなびばこ、キーボー島アドベンチャー）

(2) 小中連携

- ・合同校内研や合同学習会で、情報交換や共通した取組を行い、児童・生徒の力にしていく。
- ・授業参観交流により、学習の系統性や授業スタイルを知り、自身の授業改善に生かす。
- ・2部会を設け、小学校の2部会と連携しながら研究を進めていく。

【教科部会】

- ・小中授業交流
- ・ICT活用場面の交流

【生活部会】

- ・児童・生徒の家庭生活に関わる問題の交流

(3) 学びを支える土台づくり

◇生活づくり

- ・基本的な生活習慣の確立のため生活がんばり調べを行い表彰する。（毎月実施）

◇体力づくり

- ・朝マラソン（4分間走、雨天時はラジオ体操）、外あそびを奨励し体力をつける。

◇かかわりづくり

- ・たてわり班活動を中心に行う。（清掃活動、あいさつ運動など）
- ・全校あそび（毎週水曜日）体育委員会を中心となって行う。
- ・エンカウンター（毎月1回）を実施し、ふりかえりを児童玄関に掲示して共有する。
- ・人権教育主任を中心に各学年ごとにいいところみつけを行い、掲示していく。

※校内支援委員会を月に1回設け、児童の状態を共有し支援方法を検討していく。

6. 今年度の成果と課題（◎…授業改善について、○…小中連携について、●…学びを支える土台づくりについて）

<成果>

- ◎教職員みんながICTを授業に取り入れられるようになり、児童の学習意欲が高まった。学力テストでも全学年で伸びが見られた。
- ICT活用内容の交流や、小中での関係づくりを行うことができた。
- 今後どのような授業づくりや児童・生徒の関係づくりを行っていくかを話し合うことができた。
- 家庭と連携し、児童の生活リズムを整えることや家庭学習の充実を図ることができた。
- 学級や学校の仲間づくりができた。

<来年度にむけて>

- ◎ICTを手段として活用し、どの場面での活用が効果的なのかを厳選していく。
- ◎授業内容を日常生活や社会の事象と結びつけて考え、想像力や課題解決力を高める。
- ◎意見共有の仕方を研究していく。（対話による学習の深まり、ふりかえり）
- 中村西中学校との連携の取り方を考え、進学の流れを作っていく。
- ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、相手の身になって考え想像する力を育成していく。